

いつか きみたちが こいをしたら あいてのことを たいせつに たいせつに してほしいとおもいます。
これは てじゆんひょうや どうがではないけれども すてきな 詩があるので 「好きな人ができたら」
として のせて おきます。

『 祝 婚 歌 』（しゆくこんか） 吉野 弘

^{ふたり むつ}
二人が睦まじくいるためには

^{おろ}
愚かであるほうがいい

^{りっぱす}
立派過ぎないほうがいい

^{りっぱす}
立派過ぎることは

^{ながも}
長持ちしないことだと

^き
気づいているほうがいい

^{かんべき}
完璧をめざさないほうがいい

^{かんべき ふしぜん}
完璧なんて不自然なことだと

うそぶいているほうがいい

^{ふたり}
二人のうち どちらかが

ふざけているほうがいい

ずっとけているほうがいい

^{たが ひなん}
互いに非難することがあっても

^{ひなん しかく じぶん}
非難できる資格が自分にあっただろうか

^{うたが}
あとで疑わしくなるほうがいい

ただ ^い正しいことを言うときは

すこ 少しひかえめにするほうがいい

ただ ^い正しいことを言うときは

あいて ^き相手を傷ずつけやすいものだと

^き気づいているほうがいい

りっぱ 立派でありたいとか

ただ ^い正しくありたいとかいう

むり きんちょう いろめ つか 無理な緊張には色目を使わず

ゆったりゆたかに

ひかり ^あ光を浴びているほうがいい

けんこう ^{かぜ} ^ふ健康で風に吹かれながら

^い生きていることのなつかしさに

^{むね} ^{あつ}ふと胸が熱くなる

そんな日があってもいい

そしてなぜ ^{むね} ^{あつ}胸が熱くなるのか

だま 黙っていてもふたりには

わかるのであってほしい